



Red Hat CodeReady Studio 12.18

リリースノート

12.18 の特記すべき機能

Red Hat CodeReady Studio 12.18 リリースノート

12.18 の特記すべき機能

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Release_Notes.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本リリースノートには、Red Hat CodeReady Studio 12.18 の改良点、実装された追加機能、既知の問題、バグ修正、テクノロジープレビュー、非推奨となった機能などの簡単な説明が記載されています。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
第1章 本リリースについて	4
第2章 改良された機能	5
第3章 バグ修正	6
第4章 非推奨の機能	7
第5章 既知の問題	8

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。これは大規模な取り組みであるため、これらの変更は今後の複数のリリースで段階的に実施されます。詳細は、[弊社 の CTO、Chris Wright のメッセージ](#) を参照してください。

第1章 本リリースについて

Red Hat CodeReady Studio 12.18 は、Red Hat CodeReady Studio 12.17 の更新です。

以下のセクションでは、Red Hat CodeReady Studio 12.18 の改良点、実装された追加機能、既知の問題、バグ修正、テクノロジープレビュー、非推奨となった機能などを説明します。

CodeReady Studio 12.18 は、複数のソースから利用できます。CodeReady Studio の設定方法に関する詳細は、『[インストールガイド](#)』を参照してください。

本リリースでサポートされるオペレーティングシステム、チップアーキテクチャー、および Java Development Kit (JDK) に関する詳細は、『[サポートされる構成およびコンポーネント](#)』を参照してください。

第2章 改良された機能

- CodeReady Studio は Red Hat JBoss Wildfly 22.0.0.Final をサポートするようになりました (JBIDE-27494、JBIDE-27600)。
詳細は、[WildFly のホームページ](#) を参照してください。
- CodeReady Studio は JBoss EAP 7.3.4 との互換性を持つようになりました。
詳細は、「[JBoss Enterprise Application Platform 7.3 Update 4 リリースノート](#)」を参照してください。
- CodeReady Studio は JBoss EAP XP 2.0 との互換性を持つようになりました。
詳細は「[Develop Eclipse MicroProfile applications on Red Hat JBoss Enterprise Application Platform XP 2.0](#)」を参照してください。
- OpenShift ツールは **odo 2.0.3** をベースにしています。(JBIDE-27530、JBIDE-27563、JBIDE-27553、JBIDE-27531)。
この機能改良により、devfile (開発者指向のマニフェストファイル) をベースとするデプロイメントがサポートされるようになりました。
- Hibernate 5.4 ランタイムプロバイダーが 5.4.27.Final に更新されました。
詳細は『[Hibernate ORM 5.4.27 Release Notes](#)』を参照してください。
- Hibernate 5.3 ランタイムプロバイダーが 5.3.20.Final に更新されました。
詳細は『[Hibernate ORM 5.3.20 Release Notes](#)』を参照してください。

第3章 バグ修正

- 本リリースの CodeReady Studio で解決された問題の情報は、[こちらの解決済みの問題](#) を参照してください。

第4章 非推奨の機能

本リリースには非推奨になった機能はありません。

第5章 既知の問題

本リリースの CodeReady Studio における既知の問題の情報は、[こちらの既知の問題](#) を参照してください。

特記すべき既知の問題を以下に示します。

- **JBDS-4710**: ページのリロード後、中央ページに適切な内容が表示されない。
この問題を回避するには、Red Hat Central を再度開きます。
- **JBIDE-26118**: 現在選択したソースから JSF2 Composite コンポーネントを作成できない。
- **JBIDE-27066**: jdk11 を使用して OpenShift 4.4.0 クラスターにログインできない。
この問題を回避するには、JDK バージョン 8 を使用するか、SSL プロトコルとして TLSv1.2 を使用するよう Java を設定します。

TLSv1.2 を使用するよう Java を設定するには、CodeReady Studio インストールディレクトリー内の studio ディレクトリーにある **codereadystudio.ini** ファイルを開きます。

-vmargs セクションに以下の行を追加します。

```
-Djdk.tls.client.protocols=TLSv1.2
```

- **JBDS-4818**: Mac OS プラットフォームでのバイナリー署名ポリシーの監視。
- **JBIDE-27449**: 新しい Quarkus プロジェクト作成後のエラー。
この問題を回避するには、**pom** ファイルから以下の 2 行を削除します。

```
<goal>prepare</goal>
<goal>prepare-tests</goal>
```

- **JBIDE-27605**: BYOE 2020-09 + JBT 4.17.0.Final から JBT 4.18.0.Final への更新時に依存関係が競合。
この問題を回避するには、**ヘルプ** → **Install New Software** を使用して、RS の安定した更新サイトを選択し、JAX-RS と JAX-WS 機能の両方を選択します。どちらの機能も更新されます。

または、**Preferences** → **Install/Update** → **Available Software** を使用し、最新の Eclipse リリースを無効にします。これにより、Eclipse 2020.12 がインストールされます。
- **JBIDE-27498**: 警告ダイアログによって要求された場合、OpenShift 接続の更新は、Studio の起動済みの CRC 1.16 には機能しない。
- **JBIDE-27496**: BYOE + JBT 4.16 から JBT 4.17.0.Final に更新できない - JAXWS の依存関係の競合
この問題を回避するには、**ヘルプ** → **Install New Software** を使用して、RS の安定した更新サイトを選択し、JAX-RS と JAX-WS 機能の両方を選択します。どちらの機能も更新されます。
- **FuseTOOLS-3393**: [リグレッション] Camel デバッガーが Fuse 7.8+ で機能しない。
この問題を回避するには、JMX ナビゲーターを使用し、Camel プロジェクトの開始プロセスに接続します。メニューを展開し、Camel ノードをクリックします。**Edit routes** をクリックし、オプションを選択します。
- **FUSETOOLS-3337**: DataTransformation のある Fuse プロジェクトを Karaf 7.x ランタイム上の Fuse にデプロイできない。

- [FuseTOOLS-3373](#): Fuse インテグレーションプロジェクトが Camel バージョン Fuse 7.2 および 7.1 のエラーで作成される。
この問題を回避するには、以下の行を **jakarta.xml.bind-api** ファイルに追加し、jakarta バージョンを定義します。

```
<dependency>  
<groupId>jakarta.xml.bind</groupId>  
<artifactId>jakarta.xml.bind-api</artifactId>  
<version>2.3.3</version>  
</dependency>
```

利用可能な最新バージョンは 2.3.3 です。最新バージョンの詳細は、「[Maven Repository: Jakarta XML Binding API](#)」を参照してください。